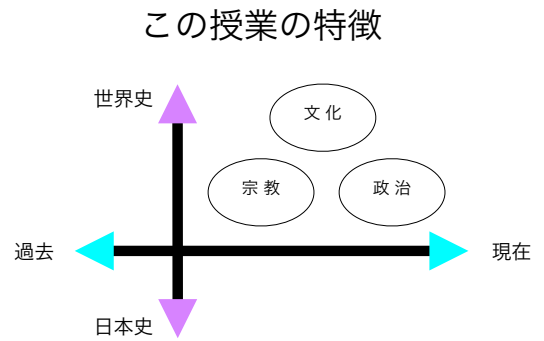


## ポイントの再確認

### 授業の前半と後半の関係



## 授業の構成

I	導入	
2-8	日本宗教の形成と展開	(現代) 宗教の風景 (古代) 神々の世界 (古代) 仏教以前、仏教伝来 (中世) 平安時代の宗教 (中世) 鎌倉仏教 (中世) 禅とその文化 (近世) 近世の宗教
9-14	近現代における日本宗教	宗教を規定する政治力学 近代日本における政教分離の形成と構造 一神教と多神教をめぐるディスコースとリアルポリシーク 宗教の多元化と多元主義 信仰の土着化とナショナリズムの相関関係 現代社会における宗教の役割

## 宗教を規定する政治力学

国家・科学との関係の中で

## Overview

世俗化、「宗教」概念の歴史の変遷  
 近代日本における宗教と科学  
 仏教と科学  
 進化論の受容から見える科学と宗教の共生関係  
 まとめ  
 [補足] 近代から現代・近未来へ

## 世俗化

世俗化 (secularization) とは何か  
 西洋における世俗化：キリスト教の影響力の減退  
 日本における世俗化  
 世界は世俗化しているのか  
 世俗主義 (secularism) ・政教分離 (separation of church and state)  
 私的領域と公的領域の分離

## 「宗教」概念の歴史的変遷

宗教 (religio) と迷信 (superstitio)

ローマ的秩序に適合するものが religio とされた。キリスト教はその初期において「迷信」とされた。

【比較】近代日本、現代中国における「宗教」

キリスト教がローマ帝国の「宗教」となる

西洋ではキリスト教が「宗教」の範型

キリスト教以外の宗教は「迷信」

## 近代日本における宗教と科学

religion の翻訳語としての「宗教」

キリスト教（特にプロテスタント）が「宗教」概念のモデルとなる。

科学と宗教

「迷信」（民俗的なものを含む）を駆逐するためのパートナー

## 仏教と科学

キリスト教に対する「防波堤」としての仏教

日本における進化論論争

仏教からのキリスト教（創造論）批判

ギューリック (John Thoma Gulik) による進化論講義 (同志社、1878-79年)



## 科学のおよび神話的世界観への適応

仏教は、内部の神話的世界観を批判的に対象化できたか？

外部の神話的世界観（皇国世界観、天皇神話）を対象化し得たのか？

科学と宗教の自己批判・相互批判なき平行関係がもたらしたものの

## 進化論の受容から見える 科学と宗教の共生関係

生物進化論の革新性

皇国史観（天皇の神的ルーツを語る）に対する挑戦

アメリカにおける進化論と原理主義の関係とのアナロジー

土台としての聖書および記紀神話

【参考】小原・中田・手島『原理主義から世界の動きが見える』（PHP新書、2006年）

科学と宗教は棲み分けながらも、国体イデオロギーを共に補完した。

## まとめ

「宗教」を定義する主体は誰なのか？

宗教が科学に対し示すべき価値や規範は何か？

生命の尊厳、平和構築への積極的提言

科学的知見（外部コンテキスト）と神話性（内部コンテキスト）に対する批判的認識

公的領域と私的領域をどのように関係づけるべきなのか？

単純な二分法的区分がもたらした負の側面

## 近代から現代・近未来へ

科学の進歩は、日常（此岸）と非日常（彼岸）の区別に  
どのような変化をもたらすのか？

攻殻機動隊 Ghost in the Shell（1995）

マトリックス Matrix（1999）



## Matrix



## リアル（現実）とバーチャル（仮想）の緊張関係

祭り、建築、音楽、文学等

vertical な超越

日常世界（生者）と超越的世界（死者、神々）の交流

人間の「こころ」の深層（たましい）との交流

horizontal な超越（科学技術により拡大）

## 情報化の彼方に

産業化・情報化の中で進行する身体感覚の希薄化。

太古の時代からバーチャルな存在であるはずの人間が、技術革新の中で、現実と仮想を行き来するための平衡感覚を失い始めている。